

# 世界秘密國之真相

河口慧海師著

## 西藏旅行記

全二冊 洋裝大判總クローヌ  
美本紙數八百九十頁  
正價一冊金 壹圓  
小包料一冊金 八錢

河口慧海師は宇治黄蘗山の僧にして夙に西藏譯の佛書を求め佛教の眞義を極めんとの大志あり明治三十年印度に涉りて爾來三年の間幾多の艱楚を嘗め姿を喇嘛僧に變し遂に西藏に入り首府拉薩に留る事二年既にして其日本人なること發覺して咄嗟奇變の迫るに遭ひ僅かに身を以て脱出し滿六年の星霜を経て無事歸朝するを得たり西藏は（ヒマラヤ）山北の高原國にして世界の高山峻嶺を以て其四邊を圍み且國道に關門を設けて鎖國を嚴行せり彼が完全鎖國を勵行せしより歐洲の探檢を企てし者幾多あるを知らずと雖も或は道途の險に仆れ或は彼國人に殺戮せられて一も成功せし者なく今尙彼國內の消息を詳かにするを得ざりき是れ師の談話の最も珍重せらるゝ所以なり時事新報記者曩に師の談話を筆記し數十日間紙上に連載して江湖の歡迎を博せり今回弊館更に師の校訂を経て前に遺漏せし所のものを悉く具備して之を上梓するに到れり然るに今や西藏は吾人の最も注意せざる可らざる境遇にあり英國は近頃遠征隊を彼國に送らんとし露國亦之れに對する運動を成んとす若し夫れ此世界に於ける秘密國の眞相を知り英露の彼國に於ける勢力消長の如何を知り且又非常活潑なる精神的活動を知らんと欲する者は師の辛苦經營の偉蹟を讀んで其裨益を得給ふべし